６１．赤間関街道(あかまがせきかいどう)—中道筋(なかみちすじ)・雲雀峠越(ひばりだおごえ)

選定箇所：雲雀峠～絵堂、下の垰～秋吉（山口県美祢市）

概要：赤間関街道中道筋は萩と下関を結ぶ赤間関街道３ルートのうち、内陸の美祢市をとおる最短距離の道である。慶長１５年（１６１０）から寛永年間に萩藩が開設したとされ、政治・外交の主要連絡道であった。吉田松陰が九州遊学に利用し、長州藩が再び討幕へ向かう契機となった「大田・絵堂の戦い」の舞台となるなど、この道が明治維新に果たした役割は大きい。絵堂宿と秋吉宿の間、秋吉台の南側で旧状をよくとどめており、石畳が往時を偲ばせる。